

塘研究室現地調査報告

7月21日、曇天の中、長瀬川・酸川の底生動物相調査を横山君、小沼君と塘の三人で実施しました。調査地点は上流側から長瀬川若宮付近、猪苗代大橋上、観音寺川流入上、長瀬川河口（猪苗代湖流入部上）の4ヶ所です。すべて5月に調査を実施した場所です。

長瀬川若宮付近は前回より水量は減っており、コカナダモが繁茂する水溜まりは復活していました。とは言え、激流でほぼ川岸付近での採集になりました。ヒゲナガカワトビケラ、ヘビトンボ、フサオナシカワゲラ属、ハグロトンボ、コオニヤンマ、オニヤンマ、ナベブタムシ、オオエゾヨコエビが見られました。猪苗代大橋上は水量が相当増えており、中州はほぼ消滅していました。また、pHも中性を示し、酸性水ではありませんでした。底生動物はユビオナシカワゲラ属、クロスジヘビトンボ、ミヤマイトビケラ属がそろって確認されましたが、それ以外は採集されませんでした。観音寺川流入上も増水状況は同様でした。pHは猪苗代大橋上よりはやや低い値を示しましたが、酸性水とは言えない状況でした。センブリ属、ユビオナシカワゲラ属、クロスジヘビトンボ、ガガンボ属が採集されました。河口付近は前回よりは若干水位が下がりましたが、まだ川の中に入れる状態ではありませんでした。前回多数の生息が確認されたミズスマシは健在でした。コガシラミズムシ、チビゲンゴロウ、ユビオナシカワゲラ属、カタビロアメンボ類などが見られました。河畔にはチョウトンボが舞っており、全部で7個体を確認しました。



フタスジモンカゲロウを捕食するオニヤンマ
(長瀬川若宮付近)



増水して中州がほぼ消滅した猪苗代大橋上



増水して川岸付近でしか採集できない状態
の観音寺川流入上付近



河口付近に生息するミズスマシ